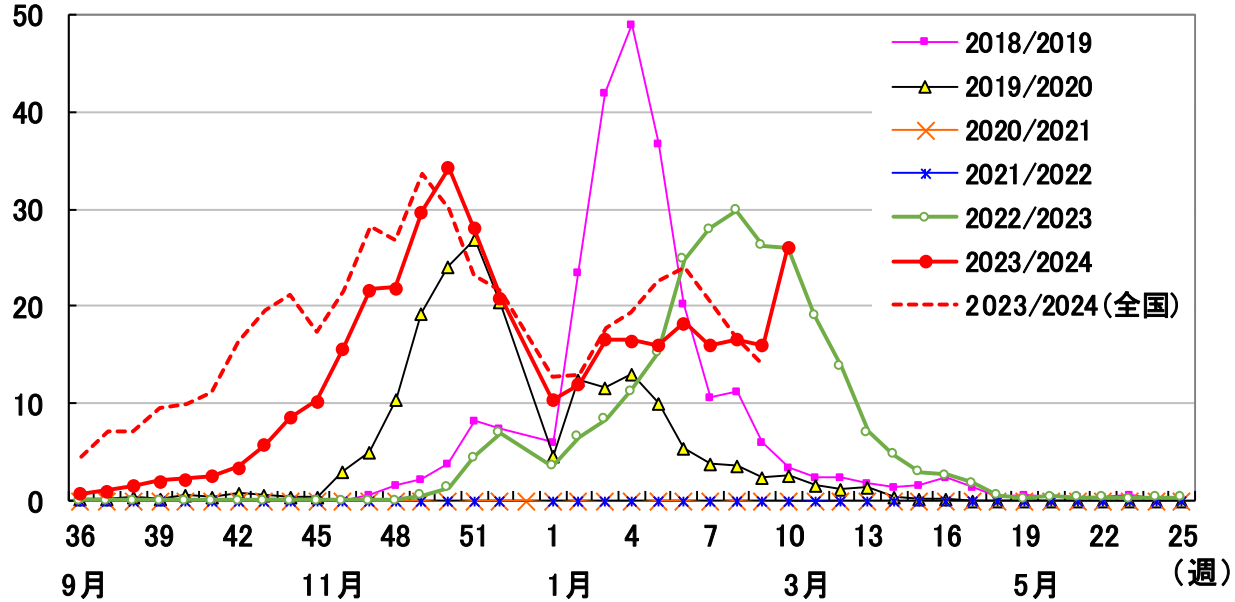


インフルエンザの発生状況(富山県)

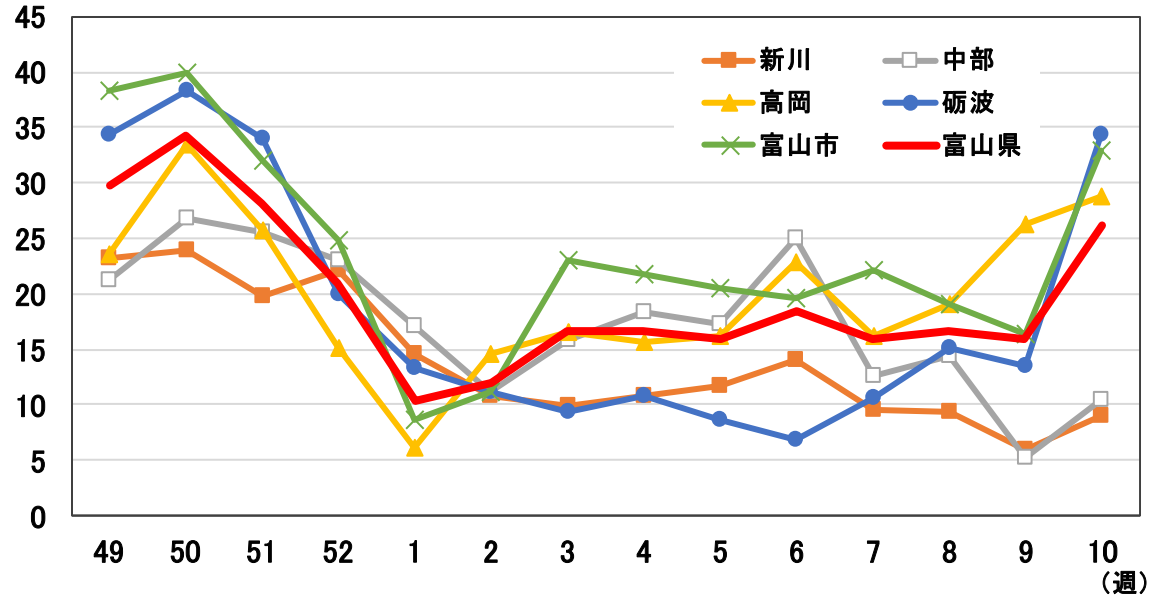
【第10週(2024/3/4~3/10) 感染症発生動向調査速報値 (2024/3/13時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



(人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数(図1)は今週(第10週) **26.21**人/定点となり、先週(16.00人/定点)から大幅に増加した。
- 厚生センター・保健所別に見ると(図2)、すべての管内で先週から増加した。砺波管内、富山市管内では警報レベルである30人/定点を超えた。

図3. 年代別割合(富山県、第10週)

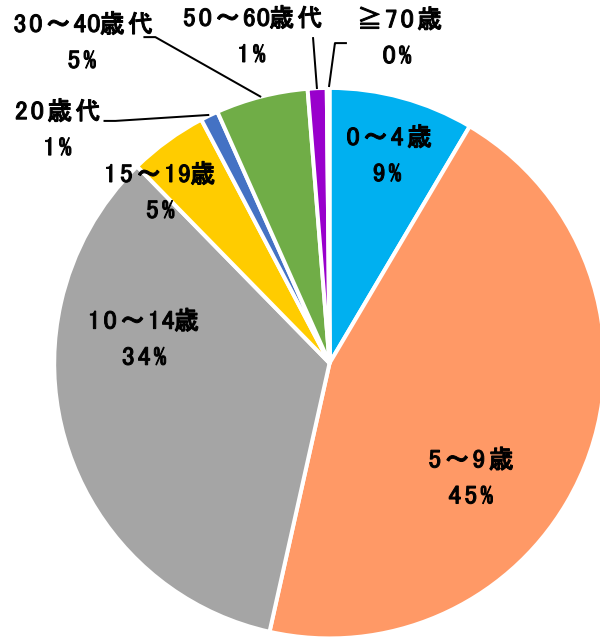
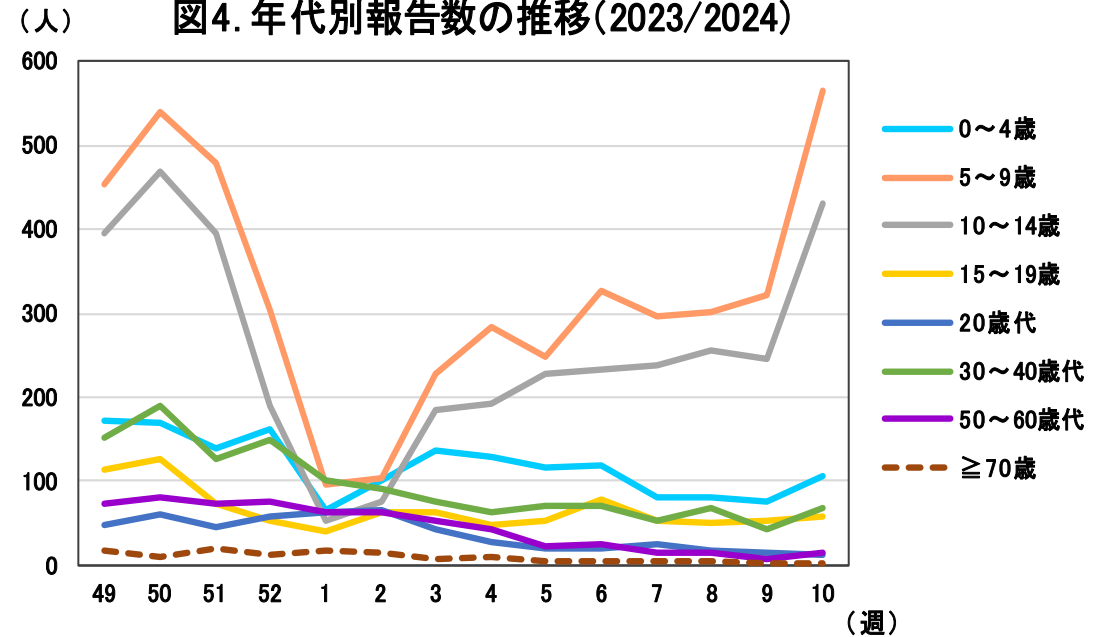


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第10週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が88%を占め、先週（84%）から増加した。
- 年代別報告数の推移（図4）では、15歳未満が先週と比較して増加しており、特に5歳～9歳（橙）、10～14歳（灰）で顕著に増加した。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第10週に43件（幼稚園2件、小学校33件、中学校7件、高等学校1件）の報告があった。

富山県インフルエンザ関連情報HP：<https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第9週)

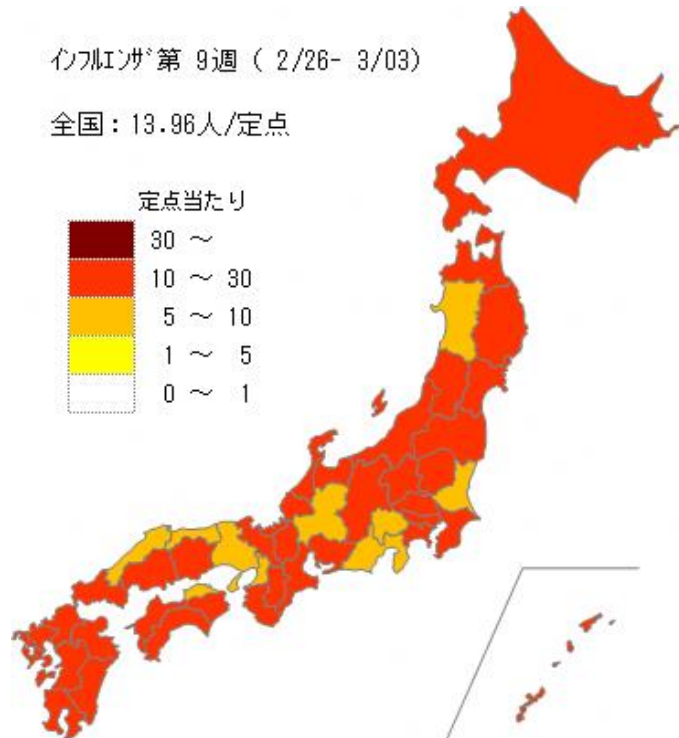
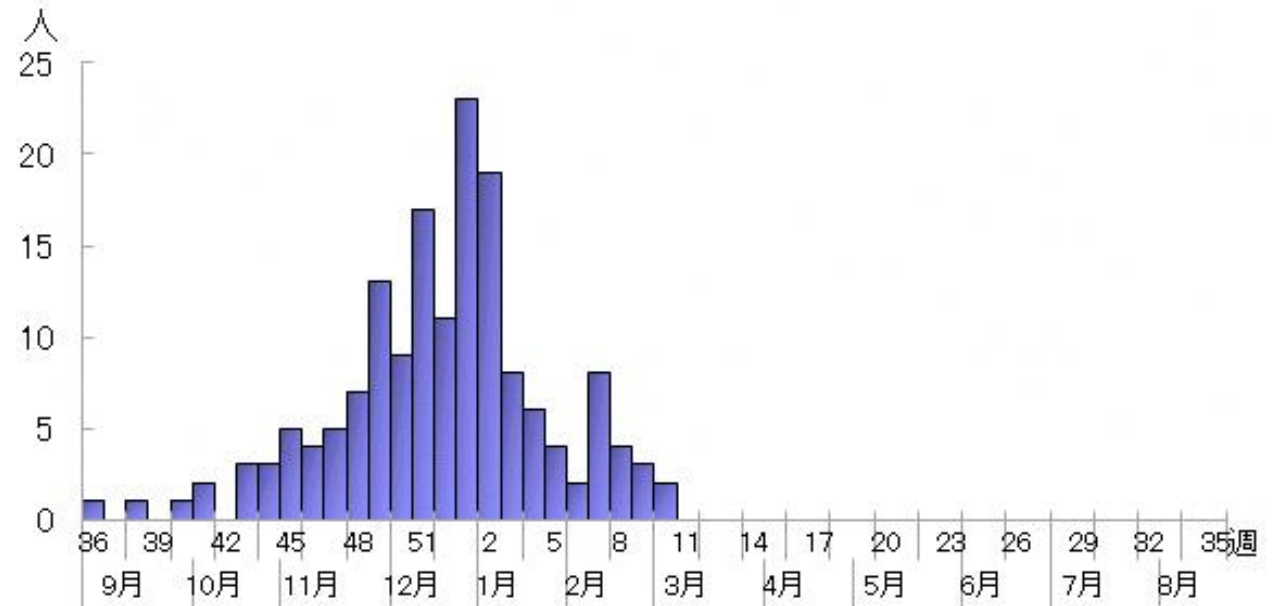


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第10週)



- 全国では第9週に13.96人/定点となり、第8週(16.77)から減少した。都道府県別(図5)では、37都道府県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス(図6)では、第10週に2例の報告(10歳未満:1例、10歳代:1例)があった。
- 県内のインフルエンザ定点の患者報告数は第3週以降概ね横ばいであったが、今週増加に転じた。また、B型の検出割合が今週88.4%となり、先週の74.7%より増加した([富山県感染症発生動向速報2024年第10週](#))。全国の報告数は減少しているものの、県内では今週小児を中心として大幅に増加しており、引き続き今後の発生動向を注視する必要がある。